令和7年度
上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回　令和8年6月30日（火）　午前9時～午前11時

第2回　令和８年7月1日（水）　午後3時30分～午後5時30分

第3回　令和8年7月16日（木）　午前10時～午前12時

上 田 市 教 育 委 員 会

目　　次

Ⅰ　趣旨　3

Ⅱ　上田市教育行政評価懇話会

Ⅲ　評価の方法　4

Ⅳ　評価の結果及び懇話会の提言内容等

1　「上田市教育支援プラン」の推進

①	確かな学力の育成（支援策1）	学校教育課	5
	確かな学力の育成（支援策2）	学校教育課	6
②	すべての子どもに寄り添う支援	学校教育課	7
③	学校部活動から地域クラブ活動への展開推進	学校教育課	8
④	放課後児童施設における良質な保育環境確保	学校教育課	9
⑤	豊かな心と健やかな身体の育成	学校保健給食課	10
⑥	小中学校のあり方の検討	教育総務課	11

2　安全・安心な教育環境の整備

①	第五中学校改築事業	教育施設整備室	12
②	小学校トイレ改修事業	教育施設整備室	13
③	小学校照明器具LED化改修事業	教育施設整備室	14
④	学校施設の適正な営繕の実施	教育施設整備室	15
⑤	学校給食施設の計画的な整備	学校保健給食課	16

3　文化遺産の保存・継承・活用

①	上田市文化財保存活用地域計画の推進	生涯学習・文化財課	17
②	史跡上田城跡保存活用事業の推進	生涯学習・文化財課	18
③	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	19

4　生涯学習の推進と学習環境の整備

①	第三次上田市生涯学習基本構想の策定	生涯学習・文化財課	20
②	地域とともにある学校づくりの充実	生涯学習・文化財課 学校教育課	21
③	人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	22
④	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	23
⑤	公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	24
⑥	図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	25

Ⅰ　趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から、目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

Ⅱ　上田市教育行政評価懇話会

令和7年度重点事業の評価について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、6月30日、7月1日、7月16日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の5人に就任を依頼しました。

（敬称略）

氏　　名	略　　歴	備　　考
児玉　隆	元教育参事、 元第六中学校長	座長
柴田　隆一	元中央公民館社会教育指導員、 元西部公民館社会教育指導員、 元西小学校長	副座長
小駒　はるみ	上田市博物館協議会委員、 元上田市地域情報化推進委員	
西澤　むめ子	元上田市社会教育委員、 元上田市塩田の里交流館館長	
町田　龍一郎	元筑波大学生命環境系教授、 上田市文化財保護審議会委員	

Ⅲ　評価の方法

令和7年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからCまでの3段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内　　容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。

Ⅳ　評価の結果及び懇話会の提言内容等

令和7年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

令和7年度　事業評価シート

1－①

事業名	確かな学力の育成（支援策１）	担当課	学校教育課

当初目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行います。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	学力向上委員会の開催（４回）	0
	授業を語る会の開催（２回）	0
	小中連携教員の配置（第六中、丸子中、真田中）	11,960
目標の達成状況	学力向上委員会においては、全校から選出された委員が、自校の全国学力・学習状況調査及びNRTの結果分析を行い、実践レポートをまとめることで、学力向上に向けた取組につなげました。また、委員会においてはグループディスカッションなどを通じて他校の取組を学び、自校の授業改善に活かしました。 授業を語る会においては、ベテラン教員をファシリテーターとし、配属経験校が１、２校の教員・講師がグループディスカッションを行い、若い世代が授業づくり等に関して、率直に悩みを語り、ベテラン教員がアドバイスを行うことで、悩みや迷いを解消し、授業改善への意欲を高めることにつなげました。 小中連携のための教員配置事業においては、小学生が中学校教員の授業を受けることで、中１ギャップの解消など中学校進学や学校生活の不安解消のほか、小学校教員は専門的な授業手法を学び、中学校教員は子どもたちのつまずきの段階を再確認する機会とするなど、教員の相互理解を図りました。	

総合評価	B

今後の課題等		確かな学力の育成のためには、児童生徒の実態を分析した戦略的な取組が大切です。各種学力検査の結果を活用し、結果の経年推移や自校の課題を分析した授業改善、教員同士の学び合いなど、教員の意識改革と指導力向上を図る取組を継続して行う必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①小中連携教員の配置については、小中学校間の連携や相互理解が進み、学力向上に加え教員の指導力向上にもつながっている点を評価します。今後は児童生徒だけでなく教職員に対する評価やアンケート等を通じて、連携の成果をより適切に把握し、指導力向上につながる取組としてさらに充実されることを望みます。 ②授業を語る会については、教員の悩み解消にとどまらず、経験豊富な教員との対話を通じて授業の本質や指導の在り方を深く考える機会としての役割が重要と考えます。今後は、より主体的・対話的で深い学びにつながるよう、内容の充実を図っていくことを期待します。
	意見に対する考え方	①小中連携教員の配置は、より学校のニーズ等に応じて柔軟に活用できるように、令和７年度から対象メニューを増やし、一部を公募型による事業として運用を開始しました。実施校による取組の成果等を各学校へ展開するとともに、教員の評価等を次年度以降の取組へ生かせるようなサイクルを構築し、指導力向上等につなげてまいります。 ②授業を語る会は、教員のニーズを把握し、教科固有の授業作りの悩み等の共有や解消ができるようなグループ分け等を行ってきましたが、表面的な視点に留まらず、授業の本質や指導の在り方が深く学べるような機会として活用してまいります。
今後の方針等		学力の定着・向上のためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と教員の指導力向上が欠かせません。今後もICT機器の効果的な活用と、直に見たり触れたりする機会の双方を大切にした授業づくりの推進によって本事業を発展・充実させ、変化が激しく、予測困難な時代において、児童生徒の学ぶ意欲や課題を探求する力、生きる力等の育成を図ります。

令和7年度　事業評価シート

1－①

事業名	確かな学力の育成（支援策２）	担当課	学校教育課

当初目標	GIGAスクール構想により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、ICTを活用した効果的な授業を推進します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	学校ICT支援員の配置（９人）	53,102
	スクールICTスタッフの配置（７人）	28,407
	１人１台端末活用支援サイト「上田GIGAスクールサイト」の更新	0
	夏季情報教育研修会（１回）、ICT夏季研修会（３回）の開催	0
	情報教育主任会の開催（４回）、ICT活用に関わる情報交換	15
	学校ネットワーク整備の実施（国庫補助率1/3）	38,500
	授業支援システムのトライアル実施	0
目標の達成状況	児童生徒に１人１台端末が整備され５年が経過し、各校では授業時のICT活用が進んでいます。 ICT支援員を国基準（４校ごとに１人）に基づき９人配置し、全小中学校に週１日滞在可能な体制を整え、ICT機器の準備、授業中の操作支援、アプリ活用の提案や研修等、教員のICT活用を支援しました。 スクールICTスタッフ７人の配置を通じ、ヘルプデスクによる遠隔操作、ウィルス対策、情報モラル及びプログラミング授業への支援等、学校現場の情報教育推進を支援しました。 令和３年度から「上田GIGAスクールサイト」を開設、授業で使える教材や各校の実践事例等、内容を随時更新しました。 ICT活用推進を目的とした各種研修会は計画どおり実施しました。 １人１台端末の入れ替えに伴い、学校ネットワークの整備を行い、国が定める推奨帯域を確保しました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善実現に向けて、ICT環境の充実や効果的な活用支援は不可欠です。１人１台端末の入れ替えをはじめ、サポートが終了する無線アクセスポイントの更新など、既存設備の更新や研修の機会充実が必要となってきます。 (2)児童生徒の情報活用能力が高まる一方で、情報モラルや適切な取り扱いを学ぶ情報リテラシー教育が必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①タブレットは、個別の学習や個人の課題への対応、家庭学習などにおいて非常に有効なツールであるため、今後も積極的な活用を期待します。 ②AIを使いこなせるかどうかが将来的な格差につながる可能性もあることから、情報モラルや情報リテラシー教育を丁寧に行うとともに、AI活用の研究を進め、子どもたちの実態や技術の進展に後れを取ることなく対応されることを望みます。 ③学力向上委員会による先進地視察は有意義な取組であり評価します。今後、情報教育主任会においても「学力向上」と「ICT活用」を併せて進めていっていただくことを期待します。
	意見に対する考え方	①クロームブックは、授業や家庭における学習支援ツールとしての活用だけでなく、学校行事や社会科見学などの校外活動にも活用しており、学びの質の向上のため、今後も日常的な活用に努めてまいります。 ②生成AIは素晴らしいツールである反面、適切な情報活用能力を備えた上で、利用者自身が正しい扱い方をしないと、学習の過程がおろそかになり、学びが身に付かない恐れがあります。現在、国では生成AIの学習指導要領への位置付けが検討されており、これらも注視しながら慎重に研究してまいります。 ③情報教育主任会では外部講師による先進事例の研修会や、学校間での実践発表などを通して、ICTを活用した効果的な授業の推進に取り組んでおり、引き続き、確かな学力の育成に努めてまいります。
今後の方針等		(1)国の「学校のICT環境整備３か年計画」に基づき、財源確保に努め、選択と集中によるICT環境整備を行います。また、ICT機器は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進するため、教員の指導の引き出しを増やし、授業のバリエーションを豊かにするサポートツールとして有用です。ICTの活用に関する教職員を対象とした研修会や情報交換会を実施し、授業への効果的な活用を支援し、学力の育成につなげてまいります。 (2)専門機関の講座等を活用した情報リテラシー・情報モラル教育を実践していきます。

令和7年度　事業評価シート

1－②

事業名	すべての子どもに寄り添う支援	担当課	学校教育課

当初目標	(1)不登校児童生徒や学び直しなどの多様な学びのニーズに対応した、新たな学習環境の創出を実現するため、「信州オープンドアスクール」の設置推進を図ります。 (2)相談体制の充実を図り、いじめ・不登校など様々な悩みを抱える児童生徒への寄り添った支援を行います。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)信州オープンドアスクールの設置に向けた検討	435
	設置検討会議の開催（４回）	271
	先進地への事例視察（２回）	88
	(2)教育相談所による全校訪問	
	スクールソーシャルワーカーのスクリーニング会議への参加（33校）	
目標の達成状況	(1)外部有識者によるオープンドアスクール設置検討会議を４回開催し、「(仮称)上田市オープンドアスクール」を設置することの決定や、設置に係る「構想」、「コンセプト」、「基本方針」の提案を受け、庁内協議、住民説明等を実施し、設置の方針及び建設場所を決定しました。 国や県と学校設置に向けた協議を開始し、開校に向け様々な検討や準備に着手しました。 (2)教育相談所による全校訪問を実施し、各校の不登校・不適応対応における支援体制の状況確認と助言を行い、全市統一した体制の充実を図りました。また、支援が必要な児童生徒の支援状況の成果や課題の整理を行い、適切な支援に向けた助言指導を行いました。 スクールソーシャルワーカーが出席する校内スクリーニング会議を33校で実施、具体的な支援者ごとの役割分担と連携体制を明確化しました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)様々な悩みを抱え学校に通学することができない児童生徒や、学び直しを希望するニーズに応えるため、早期に多様な学びの環境を整備する必要があります。 (2)不登校児童生徒数や外国籍児童生徒の増加、悩みを抱える児童生徒を取り巻く環境の複雑化等に対し、新たな学びの場や居場所となる選択肢の創出や、関係機関、民間施設と連携した支援体制の更なる充実強化が必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①オープンドアスクールの設置は、学びの機会を確保する上で大変重要な取組であり、具体的な整備や開校に向けた準備が着実に進められている点を評価します。今後は、授業内容や人員配置も含め、対象者の多様なニーズに対応できるよう、充実した教育体制の整備を望みます。 ②外国籍児童生徒の増加に対応し、日本の教育が受けられてよかったと思える環境づくりを期待します。
	意見に対する考え方	①オープンドアスクール設置検討会議においては、子どもたちや支援に関わる支援者の現場の声を反映させるため、支援に直接関与する検討委員を増員し、学校運営のあり方等について、更なる検討を進めてまいります。 学びの多様化学校と夜間中学の併設校となるため、先進校への視察や情報交換などの機会を設け、開校に向けたソフト、ハード両面における取組や学校運営における課題についても情報収集を行い、充実した教育環境の整備に向け、着実に準備を進めてまいります。 関係機関、支援団体に対するヒアリングの実施や、地元企業や地域住民とも連携を図りながら、協力体制の構築を図り、通学する生徒の多様なニーズへの対応や社会的自立の育成に向けた教育環境の創出に向けて取り組んでまいります。 ②増加傾向にある外国籍児童生徒に対し、日本語指導や日本文化の習得のための支援環境づくりに努めてまいります。
今後の方針等		(1)オープンドアスクールの早期開校に向け、施設整備や、教育課程の編成、学校運営に係る検討など、ソフト、ハード両面における適切な準備を推進します。 (2)教育相談所を核として、関係機関や子育て部門などの関係課との連携の強化を図り、組織的・継続的な支援を進めます。また、校内スクリーニング会議を推進し、関係機関の連携の強化を図り、支援を必要とする児童生徒の早期把握、学習環境の改善、居場所の創出等、個々の状況に応じた支援を行います。

令和7年度　事業評価シート

1－③

事業名	学校部活動から地域クラブ活動への展開推進	担当課	学校教育課

当初目標	(1)地域クラブ活動への展開に向け、「『（仮称）上田地域クラブ』基本方針」を策定します。 (2)地域展開の推進体制を構築し、学校や関係団体との協議を加速化させるとともに、できるところからクラブの創設を促進します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	上田市地域クラブ創設等支援補助金の制定	10,000
	部活動地域展開シンポジウムの開催（市長部局予算）	1,500
	上田市地域クラブ活動推進協議会（３回）	115
	地域展開推進コーディネーターと学校関係者・関係団体との協議	0
	中学校説明会（小学６年生と保護者対象）	0
	情報提供（小中学生向けおたより、ホームページ、広報、行政チャンネル等）	0
	東信地域の担当者による情報交換会	0
目標の達成状況	令和９年度からの本格展開に向け、「『（仮称）上田地域クラブ』基本方針」を策定するとともに、広報うえだや行政チャンネル、毎月１回の通信の配布など、進捗状況等の情報提供に努めてまいりました。令和８年度から先行して活動を開始する地域クラブの募集に係る要領を策定し、令和７年10月から募集を開始しました。その結果、本年度中に55の地域クラブを認定し、また、地域クラブとして活動はしないが、中学生の受け入れを行う45の団体の名簿登録を行うなど、中学生が主体的に多様な活動を選択できる環境整備が本格化し、より親しみやすい活動となるよう愛称の募集・決定を行いました。 さらに、受け皿となる団体が少ないなどの事情で地域展開が難しいと言われる音楽系の部活動について、信州国際音楽村が事務面での運営サポートを行うことで円滑な地域展開に協力いただけることになりました。 クラブの立ち上げは道半ばであり、解決すべき課題は様々あるものの、想定していた以上の成果があったため、A評価としました。	

総合評価	A

今後の課題等		各クラブの活動場所の確保、移動手段、持続可能な活動とするための支援のあり方、特に国・県の支援策や企業への協力依頼も含めた財源の確保など、さまざまな課題があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①行政が主体的に関わりながら、地域全体で新たな仕組みづくりが進められていること、また、短期間で取組が大きく進展していることを高く評価します。こうした取組をさらに前進させるため、市民や保護者への丁寧な周知を行い、新たな仕組みに対する理解促進を図るとともに、地域住民や企業、関係団体との連携をさらに進め、持続可能な運営体制の構築に取り組んでいくことを期待します。 ②活動機会の確保や競技力向上だけでなく、人間形成や社会性の育成など、部活動が有していた教育的価値を継承できるよう取り組んでいただくことを望みます。
	意見に対する考え方	①周知には努めているものの、部活動が終了するといった断片的な情報しか持たない保護者等もいることから、広報うえだの特集号や上田ケーブルビジョンなど様々な媒体の協力を得て更なる周知に努めてまいります。企業との連携については、市内３商工団体への協力依頼を始めたところであり、地域を挙げた持続可能な運営体制の構築に努めてまいります。 ②部活動の教育的価値を継承するには「基本方針」の遵守が重要であり、基本方針に基づいて定めた地域クラブの認定要件（指導者の資質向上、子どもの安全確保、ハラスメントの防止等）に沿った活動の担保、また、指導やクラブ運営に関する様々なリスク軽減にも引き続き取り組んでまいります。学校においても、これまで部活動が担ってきた教育的な役割に鑑み、生徒が主役となり、生徒同士のつながりが生まれる行事の工夫や地域クラブと連携した生徒理解の推進など、より特色ある学校運営に向けて支援してまいります。
今後の方針等		地域展開推進コーディネーターによる総合調整をはじめ、教育委員会と市長部局の連携によって上記の課題解決を図りながら、学校部活動からの移行や新たに立ち上がるクラブの創設支援や、円滑なクラブ運営の支援に努めます。

令和7年度　事業評価シート

1－④

事業名	放課後児童施設における良質な保育環境確保	担当課	学校教育課

当初目標	(1)秋和児童センター大規模改修の計画的な実施 (2)東部児童クラブ集約化事業の計画的な実施	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	秋和児童センター改修工事実施設計業務	3,300
	秋和児童センター外構工事	2,860
	東部児童クラブ分室集約化工事実施設計業務	11,000
目標の達成状況	(1)令和８年度の大規模改修工事に向けた実施設計業務と一部関連施設改修工事を計画どおり完了しました。 (2)令和８年度から実施する集約化工事に向けた基本設計及び実施設計業務を計画どおり完了しました。 　いずれの事業の実施にあたっては、地域の皆さんに対する丁寧な説明に努めるとともに、協議を重ね、工事期間中の代替施設の確保などの準備を整えました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)老朽化が進行した放課後児童施設も多く、今後も建替えが必要な施設が控えている状況です。 (2)核家族化の進行や共働き家庭の一般化等により、放課後児童施設の利用児童数は増加傾向にあり、登録児童数が定員を超えた施設が多い状況において、施設の建替え等にあたっては今後の利用児童数の動向を見据えた検討が必要です。 (3)放課後施設で働く方の安定的な確保が難しくなっています。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	放課後児童施設の利用状況やニーズの変化を踏まえ、地域との関わりや子どもの居場所としての機能にも配慮しながら、今後も計画的に施設整備を進めていくことを期待します。
	意見に対する考え方	核家族化や共働き家庭の増加等によって放課後施設のニーズは年々高まっています。一方で少子化が進んでおり、施設整備にあたっては適正な規模や配置等を見極めながら、計画的な施設整備を行い、子どもたちの安心、安全な居場所づくりに取り組んでまいります。
今後の方針等		新設や建替えを実施する際には、周辺施設との集約化や学校の空き教室等の既存施設の利用を検討します。また、耐震基準を満たしている施設や建設後の経過年数が耐用年数を超えていない施設など安全性の高い施設は、定期点検等を行いながら適切な維持管理を実施し、可能な限り更新を控え、施設の長寿命化を図ります。 　各施設の安定的なスタッフの確保のため、指定管理者と雇用条件等について協議を行い、やりがいや魅力の向上に努めてまいります。

令和7年度　事業評価シート

1－⑤

事業名	豊かな心と健やかな身体の育成	担当課	学校保健給食課

当初目標	(1)児童生徒の食育・健康教育を推進します。 (2)安全・安心な学校給食の提供を行います。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)食に関する情報提供及びイベントの実施	16
	(2)給食・生活習慣病予防の指導資料を作成し配布	0
	(3)第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応食の提供頻度増加と	
	新規対応食品の決定	0
	(4)各給食施設において毎月「和食の日」を設け、生活習慣病予防に配慮し	
	た献立の実施	0
目標の達成状況	(1)広報10月号に学校給食の食に関する情報を掲載するとともに、11月に食育イベント（第二学校給食センターの見学及び試食、食育・運動講座）を２回実施しました。 (2)学校職員が保護者や児童生徒に適切な指導を行えるよう、給食や生活習慣病予防に関する指導資料を作成し、各学校へ配布しました。 (3)第二学校給食センターでは食物アレルギー対応食（卵と乳）を59回提供しました（令和６年度43回)。また、次年度からエビとカニについても対応することを決定し、調査及び面談等を実施しました。 (4)各給食施設では、物価高騰が続く中、決められた給食費で栄養価を落とさず給食を提供するために、食材等に工夫を行い対応しました。併せて、主食等の価格高騰に伴い給食費の改定を行いました。また、毎月「和食の日」を設け、脂質を抑えるなど生活習慣病予防に配慮した魚や豆腐などを中心とする和食献立を実施しました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)食育や健康教育の推進には、家庭や地域の協力や連携が不可欠なため、学校給食を通じた食に関する情報を、保護者や市民へ継続的に発信していく必要があります。さらに、児童生徒の健やかな身体づくりのためには、定期健康診断の事後フォローや健康教育を充実する必要があります。 (2)学校給食において引き続き生活習慣病予防に配慮し、和食中心でバランスのとれた献立に慣れ親しめるようにするとともに、より多くの児童生徒が安全・安心でおいしい給食を楽しめるよう、食物アレルギーの対応食を拡充する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①第二学校給食センターの整備により、安全・安心な給食提供体制やアレルギー対応が充実したことを評価します。今後も安全・安心で質の高い学校給食の提供と食育の充実を継続するようまた、アレルギー対応及び事故防止対策の充実に努めていただくよう望みます。 ②食育は子どもの健やかな成長に重要であり、給食を通じた取組の充実を期待します。 ③生活習慣病予防に向けた健康教育の推進が重要と考えます。取組の充実を図るよう望みます。
	意見に対する考え方	①第二学校給食センターの整備による新しい施設及び設備を活用し、引き続き安全・安心で質の高い学校給食の提供に努めてまいります。また、食育の推進を図るとともに、食物アレルギーへの適切な対応や事故防止対策の強化に継続して取り組んでまいります。 ②学校給食は児童生徒の健やかな成長と食に関する正しい知識の習得に重要な役割を果たしています。今後も学校給食を生きた教材として活用しながら、食育の推進に努めてまいります。 ③生活習慣病の予防を含めた健康教育につきましては、指導資料の提供を行いましたが、引き続き活用状況等を把握し、内容の充実に取り組んでまいります。
今後の方針等		(1)学校給食を通じた情報発信を継続・強化し、保護者や市民向けの試食会や食育イベントを充実させます。また、定期健康診断の事後フォローと健康教育について現状を把握し、拡充に向けた課題を整理します。 (2)和食中心でバランスの取れた献立の継続や改善を図り、生活習慣病予防や健康について考える機会を拡充します。また、第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応食を充実させるとともに、安全・安心な給食を提供します。

令和7年度　事業評価シート

1－⑥

事業名	小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課

当初目標	令和３年３月に策定した「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」で引き続き研究課題とされた小中一貫教育を中心に、少子化に伴う学校規模の変化に対応した小中学校のあり方について、実情把握と検討を行い、今後の学校配置や教育体制の方針案を整理します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	教育委員による先進自治体の視察	32
	他市町村の事例調査	0
	上田市の現状把握・課題分析	0
目標の達成状況	先進地視察を通じて、義務教育学校が「９年間の連続性のある学び」や「教員の相互乗り入れ」等により高い教育的効果を発揮していることを確認し、教育内容の充実を伴う再編の重要性を再確認しました。 他市町村の事例調査や本市の現状分析を並行して進める中で、「学校適正配置計画」を新たに策定する必要があることを確認し、計画の方向性について検討を進めました。 また、少子化の進行が著しい地域からの要望により、現状・見通し等について情報提供及び意見交換を実施しました。	

総合評価	B

今後の課題等		学校の小規模化と施設の老朽化は今後も進行する見込みであり、児童生徒にとって望ましい教育環境の確保が引き続き課題です。 また、学校再編は、議論に時間を要するとともに施設改修や整備等が伴うため、短期間で進むものではないと考えております。保護者や地域住民にとっては、歴史的な重みを伴うため、理解と協力を得ながら、丁寧に検討を進めていくことが重要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	小中学校のあり方の検討については、学校の小規模化に伴う保護者の不安や地域の実情に十分配慮しながら、丁寧に検討を進めていくことが重要であると考えます。
	意見に対する考え方	小中学校のあり方の検討を進める上で、保護者の不安や地域の実情に配慮することは極めて重要なことであると認識しています。令和３年に策定された「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」においても、『行政が一方的に進めるのではなく、保護者や地域住民とも十分に課題やビジョンを共有し、理解を得ながら進めることが重要』と明記しています。この基本方針を出発点として、望ましい教育環境の確保に努めてまいります。
今後の方針等		児童生徒にとって望ましい教育環境を確保するため、学校再編に向けた「小中学校適正配置計画」の策定に取り組みます。計画では現状分析や将来推計を示し、望ましい教育環境、施設条件等を総合的に整理し、ロードマップを提示したいと考えています。計画策定にあたっては懇談会や説明会の実施、意見聴取の機会を設けるなど保護者や地域住民と十分に課題やビジョンを共有し、理解を得ながら進めていきます。 また、小中一貫教育の導入可能性や義務教育学校としての運営上の課題・メリットについて、引き続き実務的な検討と関係自治体の事例調査を進めます。

令和7年度　事業評価シート

2－①

事業名	第五中学校改築事業	担当課	教育施設整備室

当初目標	旧校舎棟ほか解体については12月までに終了し、屋内運動場改築及びプール改築工事については、11月までに着工します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)旧校舎棟ほか解体工事	304,777
	(2)屋内運動場ほか建設工事	6,690
	(3)屋内運動場ほか建設工事意図伝達・施工監理業務委託	190
	(4)仮設校舎リース（令和８年度末まで）	6,066
目標の達成状況	旧校舎ほかの解体については、目標どおりの成果がありましたが、屋内運動場については、建築工事費の高騰により予算の追加補正が必要となったため着工は２月となりました。また、プールの改築については、学校プールの利用期間が減少していることや気温の上昇に伴う熱中症リスクの高まり、維持管理費の増加など、水泳授業を取り巻く様々な課題を踏まえ、市では「上田市立小中学校における水泳授業のあり方及び学校プールの整備等に関する基本的な考え方」を定めました。この考え方では、水泳授業は引き続き行うものの、学校以外の場所で安全かつ適切に水泳授業が行える場合は、各学校に必ずしもプールを設置しないこととしております。この考え方に基づき、第五中学校のプールの改築については、公共施設や民間施設を利用したプール授業の可能性を検証してから判断することとし、保留することとしました。	

総合評価	B

今後の課題等		令和９年度末の事業完了に向け、屋内運動場の建設（令和９年度まで）、西棟改修工事（令和８年度に部活動地域展開に向けた部室用途の見直しと検討）、外構工事（令和９年度）について、徹底した工程管理を行う必要があります。また、プール授業についての検討結果を受け、既存プールの対応についても検討する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①第五中学校改築事業については、安全で良好な教育環境の整備に向けて着実に進められていることを評価します。 ②水泳授業は児童生徒の安全確保や命を守る教育として重要であり、プール施設のあり方について十分な検討が必要であると考えますので、実施方法については、学校プールの整備だけでなく、屋内プール等の活用も含めて検討し、継続的な学習機会の確保に努めることを望みます。
	意見に対する考え方	①引き続き、教育環境や安全管理等の徹底を図りながら、計画通りに改築が進むよう工程管理を行っていきます。 ②水泳授業やプール整備に関する様々な課題を踏まえ、学校以外のプールの活用等による授業内容や移動時間、一般利用者との共用など、様々な観点から学校以外での水泳授業を検証し、安全かつ適切に水泳授業が行える環境及び学習機会の確保に努めてまいります。
今後の方針等		引き続き、入札、契約、工事着工を確実に進めるとともに、建設工事中の監理を適切に行い、学校生活に支障がないよう安全管理等を徹底します。また、プール授業を外部で行うようになった場合においても、完全に外部移行するまでの間、プール授業に支障が生じないよう、既存プールの整備にも取り組んでまいります。

令和7年度　事業評価シート

2－②

事業名	小学校トイレ改修事業	担当課	教育施設整備室

当初目標	特定財源の確保に努め、トイレ洋式化率の低い城下小学校の改修工事を実施します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	城下小学校トイレ改修工事	80,993
目標の達成状況	トイレ環境の整備を行うことで衛生面の環境向上が図られ、和式トイレを使用できない児童のトイレ利用が容易となりました。また、洋式化に合わせて配管設備などの更新もされたことで経年劣化対策を図ることができました。 令和７年度末洋式化率　城下小　全体72.1%　低学年100% 全小学校　全体61.1%　低学年66.4%	

総合評価	B

今後の課題等		多くの小中学校においてトイレ改修が急務となる中、特定財源の追加補正や国・県の方針転換に備え実施設計を順次進めていく必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	小学校トイレ改修事業については、男女別の利用状況を踏まえ、単に面積を同程度とするだけでなく、男女それぞれの利用実態に応じた配慮を行いながら整備していただくことを期待します。
	意見に対する考え方	ご指摘の趣旨を踏まえ、今後の小学校トイレ改修に当たっては、男女別の利用状況等を踏まえた適切な配置や規模の在り方について検討しながら、環境整備に努めてまいります。
今後の方針等		多くの特定財源確保に努めるとともに、社会情勢の変化などについて、情報を漏らすことなく収集するとともに、早期の学校環境改善のため、計画的に整備を進めます。

令和7年度　事業評価シート

2－③

事業名	小学校照明器具ＬＥＤ化改修事業	担当課	教育施設整備室

当初目標	市内小学校11校の校舎棟、屋内運動場、グラウンドの照明器具をLEDに改修します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	小学校11校の照明器具のLED改修（令和８年４月から10年間のリース）	
目標の達成状況	小学校11校すべての照明器具についてLED化が完了しました。本工事をもって上田市内すべての小中学校のLED化が完了しました。 LED化により、照度の安定化や視認性の向上が図られ、児童の学習環境の改善につながっています。また、従来の照明に比べ消費電力が低減されることから、省エネルギー化を実現するとともに、長寿命化によりランプ交換等のメンテナンス費用の削減が見込まれます。さらに、本事業はリース方式を採用しており、将来的には無償譲渡となることから、長期的にも財政負担の軽減に資するものです。 事業手法については、従来の公共工事による整備と比較して、事業費を概ね半分程度に抑制することができ、物価高騰の影響を受ける中においても効率的に整備を進めることができました。また、公共工事で実施した場合には、上田市の予算規模や学校運営への影響、施工可能期間の制約等から、１年あたり１校程度の整備が限界であり、全校完了までに長期間を要することが想定されますが、本事業ではリース方式により３年間ですべての整備を完了することができました。 これらのことから、本事業は学習環境の改善、省エネルギー化、維持管理費の縮減に加え、事業費の抑制および早期実現を同時に達成したものであり、総合的に高い効果が得られたものと考えています。	

総合評価	A

今後の課題等		今年度で市内全ての小中学校の照明器具についてLED化が完了しました。リースされた照明器具について、管理や運用体制の統一を図ることが必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	リース契約により、経費削減を図りながら、３年間という短期間ですべての学校のLED化が完了したことを高く評価します。
	意見に対する考え方	本事業では、リース方式を採用することで、財政負担の軽減と短期間での整備を両立することができました。今後も、効率的な事業手法の活用に努めてまいります。
今後の方針等		改めて学校に対し、管理や運用体制の周知を徹底します。

令和7年度　事業評価シート

2－④

事業名	学校施設の適正な営繕の実施	担当課	教育施設整備室

当初目標	各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断のうえ、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切に事業を推進します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	小学校施設修繕　91件	15,120
	小学校施設営繕工事　63件	71,693
	中学校施設修繕　42件	9,419
	中学校施設営繕工事　19件	16,546
目標の達成状況	学校要望に基づく学校施設の営繕については、必要性およびコスト面を十分に検討したうえで、予算の範囲内で効果的な工法を採用し、迅速かつ適切に実施することができました。 特色ある事業としては、小学校費では、小学校７校の特別教室へのエアコン設置を実施したほか、長小及び本原小給食室のボイラー交換を行いました。 中学校費では、六中において増設された特別支援教室へのエアコン設置や、真田中給食室の床改修及びエアコン設置などの整備を行いました。	

総合評価	B

今後の課題等		学校施設の多くが老朽化している中、学校運営に支障が生じないように引き続き、施設の安全性・機能性の確保を図るため、計画的な修繕や設備の更新に取り組む必要があります。また、教育環境の改善及び児童生徒の快適性向上の観点から、トイレ改修や教室等への空調設備（エアコン）設置についても、計画的に推進していく必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	限られた予算の中で、各学校からの要望に対して適切に修繕・環境改善等の対応をしている点を評価します。 今後も学校施設の環境改善に向けて、継続的な取組が進められることを期待します。
	意見に対する考え方	引き続き、限られた予算の中で緊急度および重要度を適切に判断し、修繕・営繕工事を実施してまいります。 また、児童生徒の安全性に配慮するとともに、学校活動に支障が生じないよう対応し、教育環境の維持・向上に努めてまいります。
今後の方針等		児童・生徒および教職員の安全・安心な学習環境を整備するため、学校要望に基づく営繕については、専門知識を有する職員が現地確認を行い、緊急性や必要性を適切に判断したうえで対応します。今後も、コスト削減に努めつつ、効果的かつ計画的な営繕に取り組んでまいります。

令和7年度　事業評価シート

2－⑤

事業名	学校給食施設の計画的な整備	担当課	学校保健給食課

当初目標	(1)老朽化に伴い改築した第二学校給食センターについて、年度内の外構工事を計画的に進めます。 (2)第一学校給食センターの改築に向け、候補地の決定及び実施時期の検討を進めます。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)第二学校給食センター改築事業 外構工事	51,315
	(2)第一学校給食センター改築事業にかかる検討会及び視察の実施	0
目標の達成状況	(1)第二学校給食センターの外構工事を令和８年３月に完了しました。 (2)関係部署で検討会議を３回開催（７月、11月、12月）、現地視察を１回実施（10月）しました。その結果、給食を提供しながら既存施設を大規模改修することは困難であり、新施設の整備が必要であることを確認しました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)第二学校給食センター改築事業は外構工事をもって事業完了しました。今後は、引き続き衛生管理に配慮して、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供する必要があります。 (2)昭和63年築で老朽化が著しい第一学校給食センターについては、関係者と協議する中で、給食運営を継続しながら既存施設を維持することが困難な状況から、早急に事業着手に向けた改築スケジュール等の検討を進める必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	第一学校給食センターについて、新たな施設整備に向けた検討が進められている中、既存施設を活用しながら給食提供を継続していく必要があることから、安全面に十分配慮しつつ、着実な整備に向けた検討を進めていただくことを期待します。
	意見に対する考え方	既存施設による給食提供を継続するため、必要な維持管理及び修繕を適切に実施し、安全・安心な運営の確保に努めるとともに、新たな施設整備に向けた検討を進めてまいります。
今後の方針等		(1)引き続き衛生管理に配慮して、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供します。 (2)関係者と調整のうえ、第一学校給食センターの事業内容についての検討を行い、改築スケジュールを決定するなど、具体的な事業の推進を図り、早期の事業着手に向けて取り組みます。

令和7年度　事業評価シート

3－①

事業名	上田市文化財保存活用地域計画の推進	担当課	生涯学習・文化財課

当初目標	(1)文化財の保存に向けた取組を推進します。 　文化財の市指定・国登録の推進（２件以上） 　防災・防犯を含む保存事業の推進 (2)文化財の積極的な活用を推進します。 　指定や登録文化財等の情報発信 　文化財de文化祭の開催、地域と連携した文化財の保存活用		
具体的な取組	実施状況		事業費（千円）
	(1)文化財の保存	市指定に向けた調査・審議、国登録に向けた調査	141
		文化財修理、防災・防犯対策の支援	6,733
	(2)文化財の活用	令和６年度市指定の「刀」を博物館で展示し公開	0
		文化財de文化祭を開催（依水館）	500
		地域住民団体と連携し旧倉沢家住宅の保全、活用事業を実施	0
目標の達成状況	(1)文化財の市指定に向けて継続審議中の文化財について調査を実施しました。また、新たに２件の文化財について指定の諮問を行いました。国有形文化財への登録にあたり、建造物２件及び民俗文化財１件が新たに登録されました。 　信濃国分寺三重塔防災設備更新、大明神寮耐震化実施設計、保野塩野神社回り舞台外壁修理、大円寺火定跡覆屋修理、芳泉寺木造阿弥陀如来立像修理、下之郷三頭獅子祭具修理、天神宮のケヤキ、前山寺三重塔修理計画に対し、支援や補助金の交付を行いました。 (2)令和６年度に市指定文化財となった「刀」を市立博物館で展示し公開しました。また、旧千曲会館の活用に向けた改修に対し支援を行いました。 　県宝「旧倉沢家住宅」では、保全活動や地域住民向けの見学会を住民団体と連携して実施しました。文化財de文化祭は、３月に依水館で上田紬体験を開催し、13人の参加がありました。		

総合評価	B

今後の課題等		文化財の保存とともに積極的な活用を図るため、文化財de文化祭のほか文化財修理時や国登録の際などの機を捉えた見学会、指定文化財の公開など文化財を活用した事業を、文化財所有者や地域住民・市民団体と協働しながら継続して進めていく必要があります。旧倉沢家住宅や旧宣教師館等の市が所有する指定文化財についても、積極的に保存・活用を推進する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①文化財の指定・登録や保存・活用に向けた取組を着実に進めていることを評価します。今後も上田市の歴史や文化を伝える貴重な文化財について、文化財所有者や地域住民、関係団体と協力しながら保存と活用を推進していくことを期待します。 ②文化財de文化祭については、文化財所有者や関係団体との連携を深めるとともに、より効果的な周知や情報発信を行うことにより、多くの市民が文化財に触れる機会が持てるよう工夫していただくことを期待します。 ③文化財ごとの修理内容や活用した財源、事業費等について整理した一覧を作成し、ホームページ等で公開することで、文化財所有者や管理者にとって、今後の維持管理や修理を検討する際の参考となる有益な情報提供につながるものと考えます。
	意見に対する考え方	①地域の歴史文化を今に伝える貴重な文化財を未来に伝えるため、今後も調査等に基づき指定や登録を推進することで保護を図ります。また、文化財パトロール等を通じて状況や課題の把握に努め、所有者等が行う保護措置を支援します。 ②文化財を適切に保存するためには、活用を通じて多くの方に知っていただくことが必要であり、「文化財de文化祭」では、様々な文化財を会場として多様な催しを開催することで文化財に触れる機会を創出し、文化財活用のモデル事業として発信します。 ③文化財所有者・管理者が行う保護事業の参考資料として、また、上田市が行う文化財保護事業の成果の公表手段として有効と考えますので、内容を精査し情報の公開を検討します。
今後の方針等		「上田市文化財保存活用地域計画」に基づき、地域に残る貴重な文化財を将来に向けてより良い姿で保存するとともに、地域振興につながるような活用を積極的に推進します。文化財所有者や地域住民に、文化財の価値を再認識してもらうために、官民協働による事業を推進します。 　市所有文化財については、必要な修理等の保全事業を進め、さらなる活用を推進します。

令和7年度　事業評価シート

3－②

事業名	史跡上田城跡保存活用事業の推進	担当課	生涯学習・文化財課

当初目標	武者溜り整備事業を具体化するため、整備予定地の発掘調査や「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂を実施します。また、「史跡上田城跡整備専門家会議」や文化庁協議を実施します。また、旧市民会館の記録保存を行ったうえで解体工事を進めます。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)史跡上田城跡整備専門家会議の開催、文化庁協議の実施	1,311
	(2)発掘調査（本丸櫓跡、西虎口石垣跡、三十間堀跡）	6,485
	(3)「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂	8,679
	(4)旧市民会館記録保存調査の実施	1,496
	(5)資料調査（古写真、古文書等）	405
	(6)市民や学校等と連携した魅力発信の取組	0
	(7)上田城トークショーの開催	666
目標の達成状況	(1)「史跡上田城跡整備専門家会議」を３回、文化庁協議を４回実施し、武者溜り整備事業や発掘調査、整備基本計画の計画案に対する意見聴取や協議を行いました。 (2)発掘調査を実施し、本丸北西隅櫓及び西虎口石垣の遺構を確認しました。三十間堀跡のボーリング調査を実施しました。１月には現地説明会を開催し、約60人の参加がありました。 (3)「史跡上田城跡整備基本計画」の改訂作業を進めました。 (4)解体を予定している旧市民会館の記録保存調査（３Ｄ撮影）を実施しました。 (5)懸賞金事業を実施し、14件の情報が寄せられ資料を確認しました。 (6)出前講座７件、中学校２校・大学１校の支援を実施しました。３月に市民説明会を開催し、約60人の参加がありました。 (7)11月に上田城トークショーを開催し、約180人の参加がありました。	

総合評価	B

今後の課題等		武者溜り整備は、三十間堀の発掘調査を実施し位置をより正確に特定する必要があり、また石垣や土塁の遺構の残存状況についても確認する必要があります。調査結果を踏まえて史跡の価値の顕在化に加え活用も見据えた整備方法の検討が必要です。 櫓復元の機運醸成を図るとともに、櫓に関する資料やデータを収集し、早期復元に向けて有識者等の検討と見解を得ることが必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	史跡上田城跡保存活用事業については、発掘調査や現地説明会、出前講座などを通じて、市民への情報発信や機運の醸成が積極的に進められている点を評価します。 今後も学校等との連携を図りながら、文化財の保存・活用と観光振興の両面から、上田城の歴史や魅力を広く発信し、地域の魅力向上につなげていくことを期待します。 上田城は市の文化財の中核であり、別所温泉周辺をはじめとした文化財や観光施設にネットワークを作り、「観光が文化財を守る」という意識を持ち、城跡整備の市民感情を盛り上げてほしいと考えます。
	意見に対する考え方	櫓復元推進室や上田城跡整備室との庁内連携により、旧市民会館の解体工事や武者溜り整備方針の検討、櫓復元に向けた調査や機運醸成事業の推進を図ることができ、整備に向けた発掘調査の着実な実施や成果の発信などを進めることができました。整備計画や事業の進展にあわせ、今後も様々な場での情報の発信に努めます。 昨年度作成した副教材を活用する動きも出てきており、学校との連携をさらに強め、教育活用を進めるとともに、市内外へ史跡上田城跡の歴史や魅力を発信することで、多くの方に愛される史跡にしてまいりたいと考えます。 また、上田城をはじめとする市内の文化財を、周辺の観光資源と併せて有機的に結び付ける取組も進めてまいります。
今後の方針等		武者溜り整備は、旧市民会館の解体工事と並行して、引き続き未調査区域の発掘調査等を実施して必要なデータの取得に努め、専門家会議等の意見を踏まえながら、上田城跡整備室や関係課と連携して整備計画の検討を急ぎます。 櫓の復元は必要な発掘調査を行うとともに、櫓復元推進室と連携して出前講座やPRイベントのほか、櫓に関連する資料や建造物の調査を実施します。

令和7年度　事業評価シート

3－③

事業名	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	生涯学習・文化財課 博物館

当初目標	(1)信州上田ふるさと先人館の展示の充実と、情報発信に努めます。 (2)市立博物館及び信濃国分寺資料館において企画展、体験教室等を開催します。 (3)市立博物館の施設リニューアルに向けて、関係部署と連携して検討します。 (4)発掘した文化財などの活用を図ります。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)信州上田ふるさと先人館事業　　「出張どこでも先人館」７回	0
	(2)市立博物館　企画展２回、講座１１回	763
	信濃国分寺資料館　企画展２回、体験教室２回、講座３回	159
	(3)上田城跡WG会議等（他課連携）での検討会５回	0
	(4)クジラ類化石発掘調査・クリーニング作業	
	夏休み子ども自然体験学習「親子向けクジラ化石講座」１回	0
	調査状況の報告会・講演会	8
目標の達成状況	(1)公民館等の社会教育施設や市民団体と連携して「出張どこでも先人館」を７回実施しました。 (2)市民をはじめ県内外からの来館者へも魅力ある上田市の歴史を発信することができました。 (3)城跡WG会議等（他課連携）へ出席し、新しい博物館の整備計画を具現化するための研究を進めました。 (4)クジラ類化石のクリーニング作業を進めるとともに、青少年育成事業や公民館と連携した講座を開催したほか、作業の進捗等の市民報告会・講演会を３月に開催しました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)郷土の先人に関心を持ってもらえるよう先人館以外の場所でも紹介し、情報に触れる機会の創出と発信強化により先人館のPRにも繋げていく必要があります。 (2)博物館、信濃国分寺資料館の企画展や講座では、市民のニーズに応えるとともに、上田市の歴史を魅力的に発信することで観光施設としての役割も担う必要があります。 (3)博物館及び信濃国分寺資料館は、施設の老朽化が著しく、収蔵庫も飽和状態であるため、新たな施設整備の検討を進める必要があります。 (4)クジラ類化石のクリーニング作業を進めるとともに、情報発信に努め市民や子どもたちの学びの教材として活用を図ることが必要です。今後の調査に基づく評価を見定めるなかで展示公開に向けた研究を進める必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①ふるさと先人館については、「出張どこでも先人館」など、多くの人が先人や偉人の業績に触れる機会を創出していることを評価します。今後も人の往来が多く、より多くの人の目に触れる場所での展示など、展示場所や展示方法を工夫しながら、更に多くの市民が郷土の歴史や先人について学ぶ機会の充実が図られることを期待します。 ②博物館については、多様な展示や講座を通じて郷土の歴史や文化の発信に取り組まれていることを評価します。今後も収蔵資料の適切な保存と活用を図るとともに、目録整備など資料管理の充実や施設の計画的な整備を進めていただくよう望みます。
	意見に対する考え方	①「出張どこでも先人館」は取組開始から４年が経過し、公民館等での開催実績を多く得ることができております。持ち運び可能なパネルでの展示により、手軽に先人・偉人を紹介できるメリットを生かしつつ、内容の充実も検討しながら、今後も関連イベントのほか教育機関や民間施設など様々な場を会場に、多くの方に郷土の歴史や先人について学ぶ機会を創出していけるよう努めます。 ②貴重な収蔵資料を守り後世に伝えていくために、引き続き資料を活用し、魅力ある企画展や講座を開催し、歴史文化の発信に努めてまいります。また、資料の適切な保存、調査・研究のために、目録整理を進め、今後はデータベース化についても取り組んでまいります。施設整備につきましては、老朽化が進んでおり様々な課題を抱える中で、今後、類似施設の統合や複合化を含めた施設のあり方について検討を重ねてまいります。
今後の方針等		(1)展示内容の充実を図るとともに、イベント会場や公民館、学校など多くの人が利用する場所での展示を行い、周知と情報発信に努めていきます。 (2)魅力ある企画展や講座を開催し、シビックプライド醸成や文化的意識の高揚に寄与します。また、収蔵資料の目録整理を進め、データベース化にも取り組んでまいります。 (3)施設整備は、関係部署との連携を図り、計画的に取り組みます。 (4)クリーニング作業や調査の進捗に応じて可能な情報発信や公開を進めるとともに、市民向け（特に子どもを中心とした）学びの教材として活用を図るため、公民館や学校と連携し、学習や体験活動などに取り組みます。

令和7年度　事業評価シート

4－①

事業名	第三次上田市生涯学習基本構想の策定	担当課	生涯学習・文化財課

当初目標	今後の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示す第三次上田市生涯学習基本構想を策定します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)生涯学習基本構想の策定の推進	703
	庁内関係課会議の開催及び構想冊子作成	
	(2)生涯学習基本構想策定委員会による諮問に基づく調査審議	338
	策定委員会の開催	
目標の達成状況	(1)生涯学習基本構想策定に向けて庁内関係課会議を２回（５、７月）開催しました。また、第三次生涯学習基本構想の周知と推進のため、基本構想の本編冊子（500部）及び概要版（800部）を印刷しました。 (2)策定委員会を４回（5/26、7/28、9/29、1/26）、策定委員会正副会長会議を３回（5/16、9/22、1/21）開催し、昨年度実施した生涯学習に関する市民意識調査の結果や第二次基本構想の取組状況の検証を踏まえて第三次上田市生涯学習基本構想（案）についての審議を進めました。策定委員会から答申された構想（案）に基づき、第三次上田市生涯学習基本構想を策定しました。	

総合評価	B

今後の課題等		令和８年度から、第三次上田市生涯学習基本構想に基づき、生涯学習施策を推進する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	第三次上田市生涯学習基本構想について、目標どおり策定されたことを評価します。
	意見に対する考え方	今後は、基本構想策定過程での市民意識調査結果や委員からの各種意見等を含め、策定した第三次上田市生涯学習基本構想に基づき各種取組を進めます。
今後の方針等		第三次上田市生涯学習基本構想に基づき、各関係所属で具体的な目標等を定め、取組の進捗管理を行います。

令和7年度　事業評価シート

4－②

事業名	地域とともにある学校づくりの充実	担当課	生涯学習・文化財課 学校教育課

当初目標	学校と家庭、地域が連携・協働して子どもたちの育ちを支えるため、地域とともにある学校づくりの充実を図ります。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)学校支援プロジェクト会議の開催	50
	学校支援ボランティア交流会等の開催	
	(2)学校支援ボランティア活動の広報（活動内容の紹介）	227
	リーフレット、学校支援だより等による取組紹介	
	ホームページ等で活動紹介	
	(3)ボランティア活動保険の加入	537
目標の達成状況	(1)学校支援プロジェクト会議を３回開催し、学校運営委員や学校運営協議会委員を含め学校支援関係者の交流、研修の機会として、学校支援ボランティア交流会（66人参加）、読み聞かせボランティア交流会（91人参加）コミュニティルーム見学会（２回、53人参加）に取り組みました。学校支援ボランティア交流会には学校職員にも参加いただき、相互理解を深める機会となりました。また、他校の取組を知ることで新たなコミュニティルームの開設につながりました。 (2)学校支援の関係者に学校支援プロジェクト会議の取組等を紹介するため、学校支援だよりを４、８、11月に発行しました。 また、事業の周知と支援者の広がりにつなげるとともに、令和２年改訂の「学校支援ボランティアハンドブック」の内容更新を目的としてリーフレットを作成しました。（6,000部）あわせて、市内小中学校３校の取組をホームページで紹介しました。 (3)学校支援ボランティア参加者が安心して活動できるようボランティア活動保険に加入しました。（1,533人）	

総合評価	B

今後の課題等		「地域とともにある学校づくり」を持続可能な取組とするため、引き続き現在活動している関係者への支援が必要です。 また、ボランティアなどの高齢化・固定化が課題であり、新たな担い手を育成するため、より多くの方に取組を知っていただくことが重要です。 「学校を核とした地域づくり」という視点も含め、関係課や学校とともに取組を進めるとともに、地域とのつながりをより強化していく方策の検討が必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	交流会等を通じて学校支援ボランティア同士の学び合いやつながりが深まっている点を評価します。 今後も広く活動の周知を行うとともに、参加しやすい機会の充実を図り、新たな担い手の確保につなげていただくことを期待します。
	意見に対する考え方	引き続き現在活動している方々の支援を行うとともに、活動を市民へ周知することなどを通じて、新たな担い手確保につながる取組を進め、事業の充実や持続可能な体制強化に努めます。
今後の方針等		各学校での取組について情報収集を行うなど理解を深めながら、学校支援プロジェクト会議による関係者への交流会・研修等の開催により、関係者の意欲の向上やつながりづくりを進めるとともに、市民等へ広く取組の周知を行うことにより、持続可能な体制の強化や改善を図ります。 「学校を核とした地域づくり」という視点について理解を深めるため、研修会等に積極的に参加し、情報共有を行うとともに、必要に応じて関係課や学校と取組の方向性等の検討を行います。

令和7年度　事業評価シート

4－③

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課

当初目標	(1)「上田市人権施策基本方針」に基づく人権同和教育・啓発を推進します。 (2)人権尊重の精神が日常的に発揮できる講演会・研修会等の事業を実施します。 (3)地域（自治会・分館）の主体的な人権学習活動を支援します。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	学校人権同和教育	4,278
	地域人権同和教育	1,473
	社会教育団体等人権同和教育の推進	265
	企業人権同和教育の推進	200
	市民団体との協働による人権啓発	2,738
目標の達成状況	上田市人権啓発推進委員会においては、10月に戦場カメラマンでフォトジャーナリストの渡部陽一氏を講師に迎え「人権を考える市民のつどい」を開催しました。約1,200人が参加し、人権について考えるよい機会となりました。 また、２月には、上野が丘公民館を会場に「うえだ人権フェスティバル」を開催し、人権作品の表彰や作品発表、日本福祉大学中央福祉専門学校特別顧問の渡辺哲雄氏による高齢者の人権に係る講演会を行いました。 11月開催の人権担当者研修会においては、多様な人権問題について話し合うことを通じて社会教育関係団体等の人権担当者の資質の向上、層の拡大を図りました。 令和６年度から開始した「地域における人権学習事業」では、地域（自治会・分館）における主体的な学習事業を促進し、人権尊重の意義と人権課題を学ぶ機会の提供を支援しました。 近年増加しているインターネットによる人権侵害については、学校や地域等で講演会や学習会を行い、情報リテラシーを深める教育を推進しました。また、差別事象について、人権共生課と共に検討を行いました。 小中学校においては、児童生徒・学校教職員の人権同和教育授業、授業研究、研修会、講演会等を行い、人権同和教育と啓発の推進を図りました。	

総合評価	B

今後の課題等		近年SNSによる差別事象も増加してきていることから、今後、このような差別が起きないよう人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。 市民一人一人の人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に移せるような、有意義な講演会や研修会等を企画、実施し、人権同和教育と啓発を着実に推進していく必要があります。 より多くの地域（自治会・分館）が、主体的な学習を今後も円滑かつ継続的に実施できるよう支援していく必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①人権同和教育については、多くの事業が実施されるなど積極的に取り組まれている点を評価します。今後も、地域の実情や課題に応じた主体的な学習活動を大切にし、学習者のニーズに応じた取組を引き続き推進していただくことを期待します。 ②機関紙「ヒューマン上田」については、全戸配布にとどまらず、学習会等での活用を含め、より効果的な活用方法を検討し、人権意識の向上につなげていただくことを期待します。
	意見に対する考え方	①自治会ごとに選出されていた「人権同和教育推進員」が令和５年度をもって廃止されたことに伴い、地域における人権学習の機会は減少している状況にありますが、地域の実情や課題、学習者のニーズに応じた主体的な学習活動を大切にしながら、より多くの地域で人権意識の向上につながる、中身を伴った取組を引き続き推進できるよう努めます。 ②上田市人権啓発推進委員会が発行している機関紙「ヒューマン上田」については、配布を受けた人の関心に委ねるだけではなく、配布するだけで終わらせない活用方法についても、当該委員会の担当係会の場などにおいて検討します。
今後の方針等		講演会等の参加者アンケートでは、８割の方が人権について理解が深まったと回答しています。市民意識調査の結果からも、講演会や研修会の開催は実施方法として有効であると認められるため、これまでどおり教育と啓発活動の中心に据えて推進します。また、必要に応じてICTを活用するなど、一人でも多くの方々に参加していただける方法を工夫したり、啓発活動の実施に取り組みます。 学校、家庭、地域、企業・職場など様々な場を通じて教育及び啓発を推進し、近年増加しているインターネットによる人権侵害に対しては、情報モラルについて理解を深めるための教育・啓発の充実や、情報を正しく安全に利用するための情報リテラシーを深める教育の推進に努めます。

令和7年度　事業評価シート

4－④

事業名	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課

当初目標	(1)子どもの成長に重要な自然体験活動や集団遊びに触れる機会を増やすため、モデル事業の実施や地域単位（自治会等）の体験活動を支援します。 (2)子どものネットの利用状況が課題とされる中、適正利用の啓発に取り組みます。 (3)地域（自治会・分館）の主体的な青少年育成学習活動の支援に取り組みます。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)子どもを主な対象とした、地域の自然体験活動及び集団遊び事業	215
	上田市子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動の促進	378
	(2)インターネット・スマートフォン適正利用啓発リーフレット作成	108
	(3)地域におけるこどもまんなか社会学習事業	521
目標の達成状況	(1)子どもを主な対象とした、地域の自然体験活動及び集団遊び事業を実施したほか、各地区の育成会へ体験活動支援事業補助金を交付しました。 (2)長野県が実施した小中学生のインターネット、スマートフォン利用に関するアンケート調査結果を踏まえ、市内小中学校の全児童・生徒へ配布する適正利用啓発リーフレットを発行しました。（15,000部） (3)令和６年度から「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」を開始し、地域(自治会・分館)における主体的な学習事業を促進し、こども・若者を取り巻く様々な課題を学ぶ機会を支援しました。（自治会・分館での学習会開催数34件・参加者827人）	

総合評価	B

今後の課題等		(1)体験活動は、子どもの成長に良い影響を与えているとの調査研究が報告されています(令和２年文部科学省)。保護者や地域の大人がその重要性を理解し、身近な場所でこれらの機会を増やしていく必要があります。 (2)インターネット・スマートフォン適正利用に関し、学校・保護者・地域の連携を進め、未就学児の親への啓発についても情報提供を進めていく必要があります。 (3)全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活ができる社会実現のため、大人がこども・若者を取り巻く課題を主体的に学ぶ必要があります。 (4)こども安全安心見守り委員(旧少年補導委員)活動について、子どもの非行防止から見守りへと重点が移る一方、自治会からの委員選出が困難との意見が出されており、役割・選出方法・人員体制等の見直しが必要となっています。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①自然体験活動については、学校だけでは十分に確保することが難しくなってきている体験活動について、社会教育や地域との連携により機会の充実を図るとともに、子どもたちが自然や地域との関わりの中で多様な体験ができる機会の充実を図っていくことを期待します。 ②情報モラル教育については、子どもへの指導に加え、保護者や地域に対する啓発を行うなど、情報リテラシーの向上につながる取組をさらに推進していくことを期待します。
	意見に対する考え方	①教育委員会及び子ども会育成連絡協議会の主催で年間６回程度の自然体験教室を行っています。河川や公園、史跡、町なかの商店街、温泉地など上田を特徴づける場所を会場として選定しています。地域の自然や歴史及び関係者との交流を肌で感じ学びながら実体験することが、「生きる力」の基礎を育む重要な要素となるため、引き続き体験内容の充実を図ります。また、体験教室に参加した保護者が地域の育成会等で行う事業の参考となるよう事例の共有に努めます。 ②情報モラル教育の重要性に鑑み、令和８年度から市立小中学校の児童生徒及び保護者を対象とした「小中学生のための情報モラル学習支援事業」を開始しました。情報端末の適正利用を指導啓発する専門的知見を持つ講師の学校招聘を支援するもので、授業参観日に保護者が受講する学校もあります。具体的なトラブル事例や危険性の注意喚起を行い、発達段階に応じたリテラシー向上を図ります。また、「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」等を通じて情報モラル教育の地域への浸透を図ります。
今後の方針等		(1)体験活動や集団遊びの重要性を学ぶ機会を継続的に作ります。また、自治会単位の育成会の活動事例の共有や研修会を通して、地域での新たな取組が始まる動機づけを行います。 (2)情報端末の適正利用のため、リーフレットの家庭での活用が図られるよう努めるとともに、小中学校における保護者を含めた情報モラル教育の充実を支援します。 (3)「地域におけるこどもまんなか社会学習事業」を利用した地域での主体的な学習事業を通じて、子どもたちを取り巻く課題を学び、その解決に地域で取り組むきっかけを作ります。 (4)令和６年度に現役委員から情報収集を行いました。令和７年度は当該意見や改選時の地区自治連からの要望及び他市の事例や動向も踏まえ、学校や警察等との連携強化、自治会選出から直接依頼・公募等への選出方法の変更、定員のスリム化について具体化し、令和９年度から新体制での活動を開始します。

令和7年度　事業評価シート

4－⑤

事業名	公民館事業の充実	担当課	中央公民館 生涯学習・文化財課

当初目標	(1)多様な学びの機会を充実します。 (2)分館活動支援による地域づくりを推進します。 (3)公民館の活性化に向けた取組を行います。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)多様な学びの機会の充実	9,298
	各世代のニーズや地域課題に応じた講座・事業の実施	
	(2)地域での結びつきを高める共催事業や研修会等の実施	2,272
	「分館活動の手引き」の作成及び各分館への配布	237
	(3)施設貸出区分の一時間単位への変更、予約システム稼働に向けた	0
	システム構築及び運用開始、LINE等による新たな情報発信の実施	
	公民館事業への高校生等、地域住民の参画	1,260
目標の達成状況	(1)各世代のニーズや地域課題に対応した講座等を実施し、多様な学びの機会を提供しました（ニーズに応じた講座等681回16,771人、地域課題等に対する講座等70回1,687人）。 (2)分館の負担軽減に配慮しながら、地域での結びつきを高める共催事業を実施しました（スポーツ大会等共催事業84回）。また、手引きの作成・配布、研修会等を通じて、分館活動の維持・推進に必要な情報提供を行いました（関係者研修会１回）。 (3)貸出区分の変更に伴う混乱が生じないよう丁寧な説明や対応を行い、円滑な移行に努めました。予約システムの導入については、公民館職員によるプロジェクトチームを設置し、稼働に向けてシステム構築に取り組み３月から運用を開始しました。また、地域住民が企画段階から参画する事業も実施するなど活性化に取り組みました。	

総合評価	B

今後の課題等		(1)それぞれの世代のニーズに応じた講座や、地域についての理解を深め課題の解決につながる講座等、学びの機会を充実させていく必要があります。 (2)地域住民同士の親睦の深まりや活性化など分館の重要性と、担い手不足などの課題を共有しながら、分館活動を丁寧に支援していく必要があります。 (3)予約システムについては、利便性の向上と利用者の拡大を図るとともに、予約システムを利用できない方にも配慮し運営します。また、活性化に向けて、若年層など新しい利用者を掘り起こしていく取組が必要です。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	公共施設予約システムについては、利用者の利便性向上につながる取組として評価します。 今後も誰もが学習活動に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、公民館活動のさらなる充実に向けた検討を進めていただくことを期待します。
	意見に対する考え方	第三次上田市生涯学習基本構想の実現に向け、地域住民にとって最も身近な学習の拠点として、多様な学習の機会の提供や学びを通したつながりづくりなど、誰もが参加しやすく学べる環境を整え、事業の充実に努めてまいります。
今後の方針等		(1)ニーズや課題に的確に対応した学びの機会を提供し、子どもや若者、働き盛りの世代も含めて、地域住民が、気軽に集い、つながる公民館の運営に取り組みます。 (2)分館は、地域に根ざした社会教育や住民交流の拠点として重要な役割を担っています。公民館と分館の共催事業では、時間短縮や内容の見直し、公民館の関わり方も検討し、分館の負担軽減、活動の維持・推進が図れるよう支援します。 (3)予約システムの柔軟な運用のほか、地域人材や資源の活用、住民参加型の事業、学校等との連携、積極的な情報提供など、公民館の活性化に取り組みます。

令和7年度　事業評価シート

4－⑥

事業名	図書館サービスの充実	担当課	上田図書館 生涯学習・文化財課

当初目標	(1)第三次上田市図書館基本構想を策定します。 (2)上田図書館整備計画の策定を推進します。 (3)第三次上田市子ども読書活動推進計画策定に向けた準備を進めます。	
具体的な取組	実施状況	事業費（千円）
	(1)構想案の作成推進、図書館協議会及び社会教育委員会議で構想案の審議	124
	(2)第三次上田市図書館基本構想に上田図書館整備の基本的な考え方を盛り込む	0
	(3)第二次計画の進捗状況・課題の確認	0
目標の達成状況	(1)第三次上田市図書館基本構想については、上田市図書館協議会、上田市社会教育委員会議での審議を経て、「ひとにやさしく　つながり見つかる　わたしの図書館」を基本理念とする構想を策定しました。 (2)第三次上田市図書館基本構想に、上田図書館の施設整備の基本的な方向性や考え方を位置付けました。 (3)第三次上田市図書館基本構想の基本施策のひとつとして「子ども読書活動の支援」を位置付けるとともに、第三次計画策定に向けた課題と進捗状況を確認しました。	

総合評価	B

今後の課題等		第三次基本構想の始動に伴い、策定した計画を着実に実行していく必要があります。特に、図書の貸出が減少傾向であることを踏まえ、より多くの市民に利用されるよう、図書館に対する市民の要望を捉えてサービスに反映させていく方法を検討していく必要があります。上田図書館整備計画については、老朽化対策のみならず、デジタル化への対応や複合施設化等、将来的なニーズや財政負担を踏まえた検討が必要となっています。また、子ども読書活動推進計画の策定にあたっては、家庭、学校、保育所等の施設、民間団体等との連携体制の構築が必要となっています。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	① 図書館資料のデジタル化については、上田市の貴重な歴史・文化資料の保存と活用につながる取組として評価します。今後もデジタル資料の充実を進め、より多くの方が利用できる環境づくりを期待します。 ② 第三次上田市図書館基本構想の策定を評価します。今後は基本構想に基づき、高校・大学・専門学校等との連携を深めることで、子どもたちが専門的な分野の資料や多様な本に触れる機会を創出するなど、図書館サービスの充実につなげていくことを期待します。
	意見に対する考え方	①図書館資料のデジタル化については、今後も市の情報政策担当部署、専門家、専門機関と連携しながら、資料の充実に努めてまいります。 ②高校・大学・専門学校を含めた様々な教育機関等と連携を進め、学生の教育活動の支援や読書機会の拡大に努めてまいります。
今後の方針等		第三次基本構想については、基本理念や基本方針の市民への周知や、図書館に対する市民の声の把握を行いながら、各種事業を着実に進めていきます。新上田図書館整備に向けては、講演会等により図書館について市民とともに学ぶ場を設けます。子ども読書活動推進計画については、家庭、学校、保育所等の施設、民間団体等と連携して、第三次計画を策定します。